

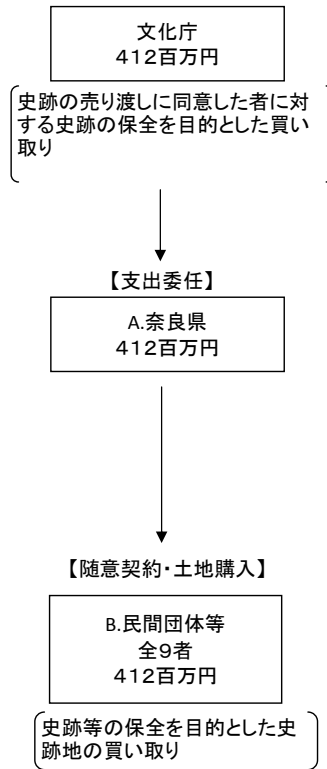
平成23年行政事業レビューシート

(文部科学省)

<b>事業名</b>		平城及び飛鳥・藤原宮跡等の買上		担当部局庁	文化庁		作成責任者		
<b>事業開始・終了(予定)年度</b>		昭和38年度		担当課室	記念物課		記念物課長 矢野 和彦		
<b>会計区分</b>		一般会計		施策名	X II - 2 文化財の保存及び活用の充実				
<b>根拠法令 (具体的な条項も記載)</b>		文化財保護法第1条		関係する計画、通知等	「飛鳥地方における歴史的風土及び文化財の保存等に関する方策について」(昭和45年12月18日閣議決定)				
<b>事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)</b>		平城宮跡は、昭和37年に宮跡全体を国有地化する方針が決定され、藤原宮跡及び飛鳥地区については、「飛鳥地方における歴史的風土及び文化財の保存等に関する方策について」によって国有地化の方針が決定されている。 史跡等に指定された地域内の土地等については、所在する遺跡等を保護するため、現状変更許可制度により規制がかけられている。国による買上げは、史跡等の保存のための土地利用制限に対し、財産権尊重のためにとられる補償的措置として行われるものであり、買上げを行うことにより、重要な遺跡として歴史的・学術的に貴重な価値を維持するばかりでなく、国民的文化遺産でもある宮跡等を保護するものである。							
<b>事業概要 (5行程度以内。別添可)</b>		平城宮跡及び飛鳥・藤原宮跡地を買い上げるにより、歴史的、学術的に貴重な価値を有する重要な遺跡の保全と活用を図るものである。							
<b>実施方法</b>		<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
<b>予算額・執行額 (単位:百万円)</b>				20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
		予算の状況	当初予算	350	398	398	1,256	557	
			補正予算	0	0	0	0		
			繰越し等	7	△ 14	14	0		
		計		357	384	413	1,256	557	
		執行額		348	383	412			
執行率 (%)		97.5%	99.7%	99.8%					
<b>成果目標及び成果実績 (アウトカム)</b>		成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (年度)
		特別史跡平城宮跡及び飛鳥・藤原宮跡地の全史跡指定地の公有地化。		成果実績	m <sup>2</sup>	1,614,915	1,625,296	1,639,918	2,359,412
<b>活動指標及び活動実績 (アウトプット)</b>		活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
		特別史跡平城宮跡及び飛鳥・藤原宮跡地の史跡指定地の買上げ面積		活動実績 (当初見込み)	m <sup>2</sup>	7,587	10,381	14,622 ( 16,966 )	— ( 11,762 )
<b>単位当たりコスト</b>		27,266(円/m <sup>2</sup> )		算出根拠	購入費用(円)÷購入面積(m <sup>2</sup> )				
平成23・24年度予算内訳	<b>費目</b>		23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	平城及び飛鳥・藤原宮跡地等購入費		1,256	557	積算の見直しによる減など				
計		1,256	557						

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	○	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	—	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	—	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	—	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>平城宮跡は、昭和37年に宮跡全体を国有地化する方針が決定され、藤原宮跡及び飛鳥地区については、「飛鳥地方における歴史的風土及び文化財の保存等に関する方策について」によって国有地化の方針が決定されていることから、現在国の直轄事業として実施している。</p> <p>史跡の買上げについては、土地鑑定を行い価格を設定するなど客観的な指標を用いて実施しており、事業の適正化は図られている。</p> <p>今後も、奈良県とさらなる連携を図りつつ、国有化の推進を図っていくものである。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
現状通り	<p>1. 事業評価の観点：この事業は、平城宮、藤原宮跡地及び飛鳥地区の土地について、国有地化の方針の下、国が直接買い上げる事業であり、長期継続事業の観点から検証を行った。</p> <p>2. 所見：本事業は長年にわたり実施されてきているが、国有地化の方針の下、地権者と協議に基づき必要な買上を実施するものであることから、計画的な取得に努めることとし、現在の事業内容を引き続き維持すべきである。</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を  
行っているか  
について補足  
する) (単  
位: 百万円)



費目・使途 （「資金の流れ」 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載）	A.奈良県			C.		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	購入費	土地等売却代価	412			
	計		412	計		0
		B.橿原市高殿町・別所町・法花寺町財産管理者			D.	
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)	
購入費	土地等売却代価	131				
計		131	計		0	

### 支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	奈良県	買上げ費用	412	—	—

※支出委任であるため「入札者数」「落札率」は「—」としている

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	橿原市高殿町・別所町・法花寺町財産管理者	買上げ費用	131	随意契約	—
2	個人A	買上げ費用	53	随意契約	—
3	橿原市高殿町・別所町・法花寺町財産管理	買上げ費用	45	随意契約	—
4	個人B	買上げ費用	45	随意契約	—
5	個人C	買上げ費用	43	随意契約	—
6	個人C	買上げ費用	42	随意契約	—
7	個人D	買上げ費用	38	随意契約	—
8	個人E	買上げ費用	12	随意契約	—
9	個人E	買上げ費用	2	随意契約	—

※表示単位未満四捨五入の関係で、積み上げと合計は一致しない